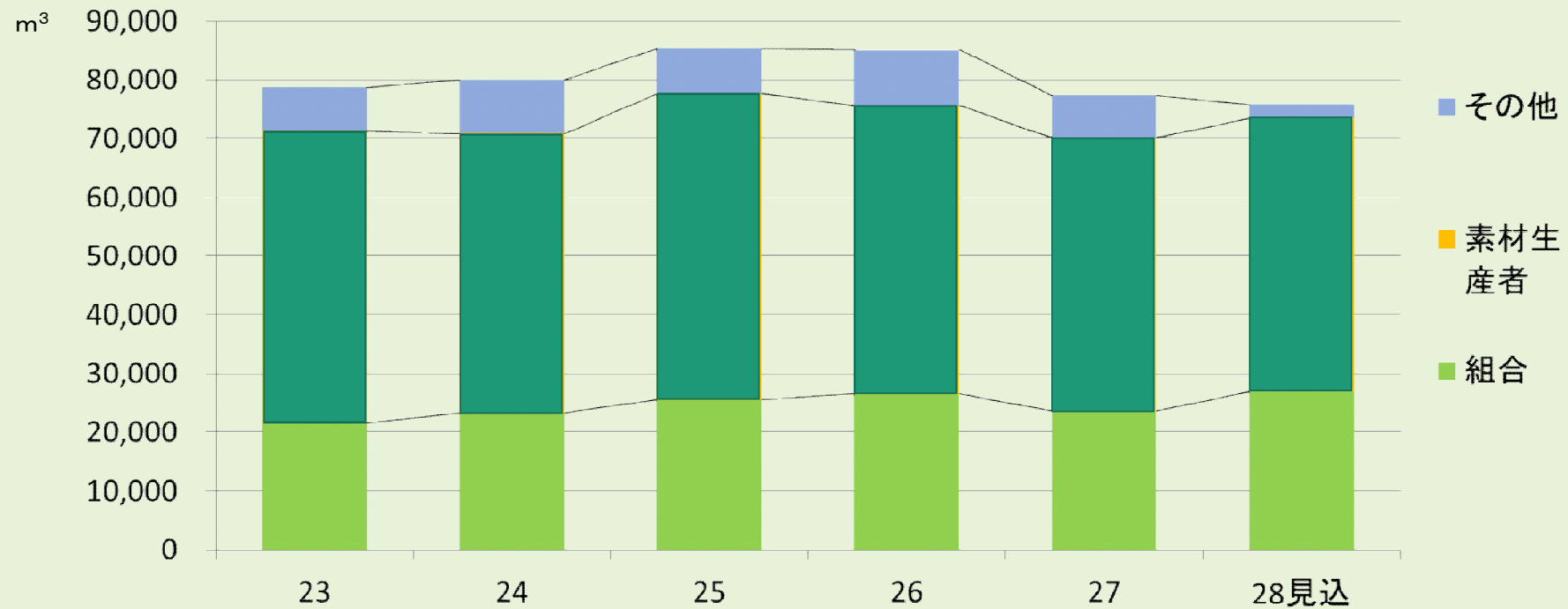


最近の原木市場の動き

山口県森林組合連合会

平成28年8月

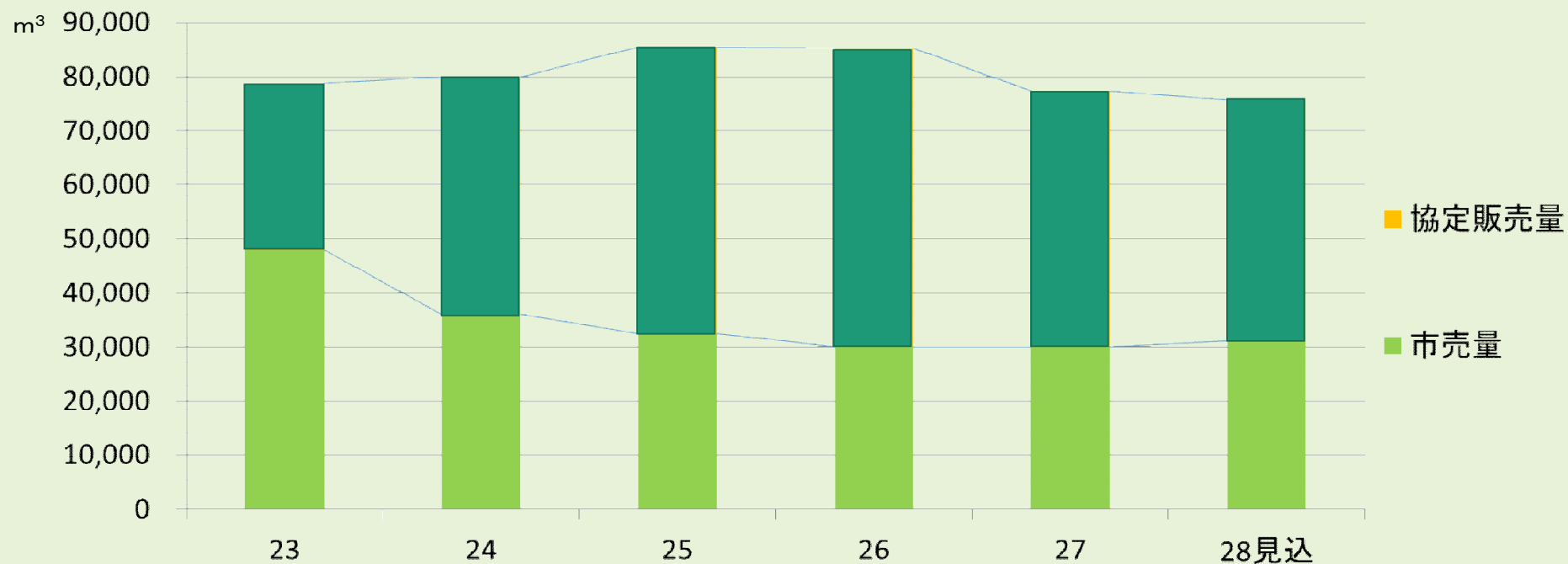
県森連(4共販所)の取扱状況



平成27年度は前年度から約8,000m³落ち込んだ

組合の素材生産量自体は増加しているが、市場流通量は減少した

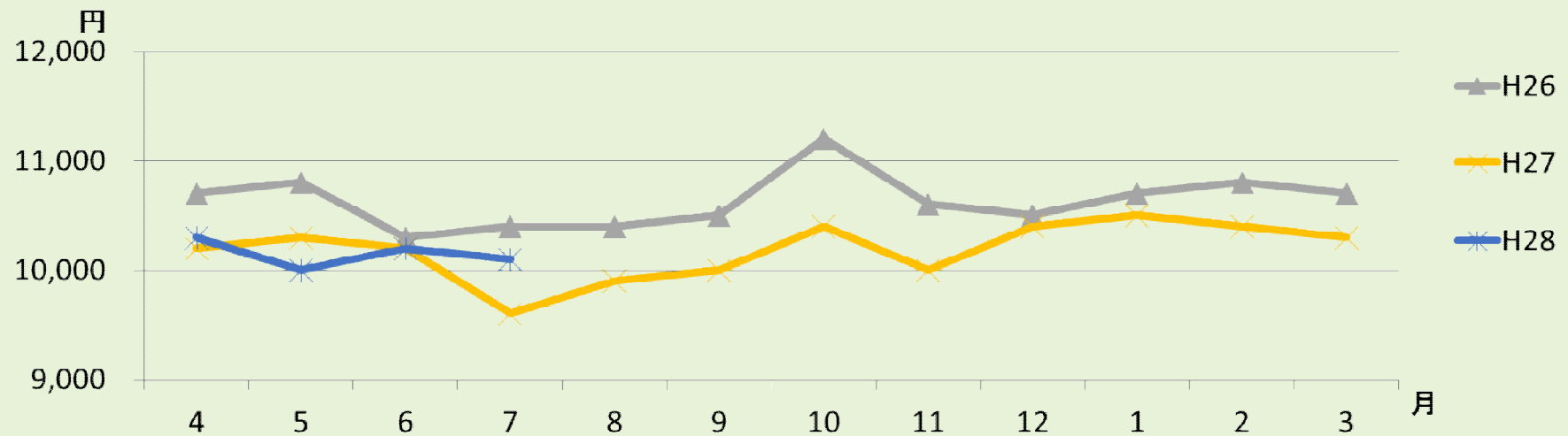
販売状況



平成26年度には協定販売量は取扱量全体の**65%**になった

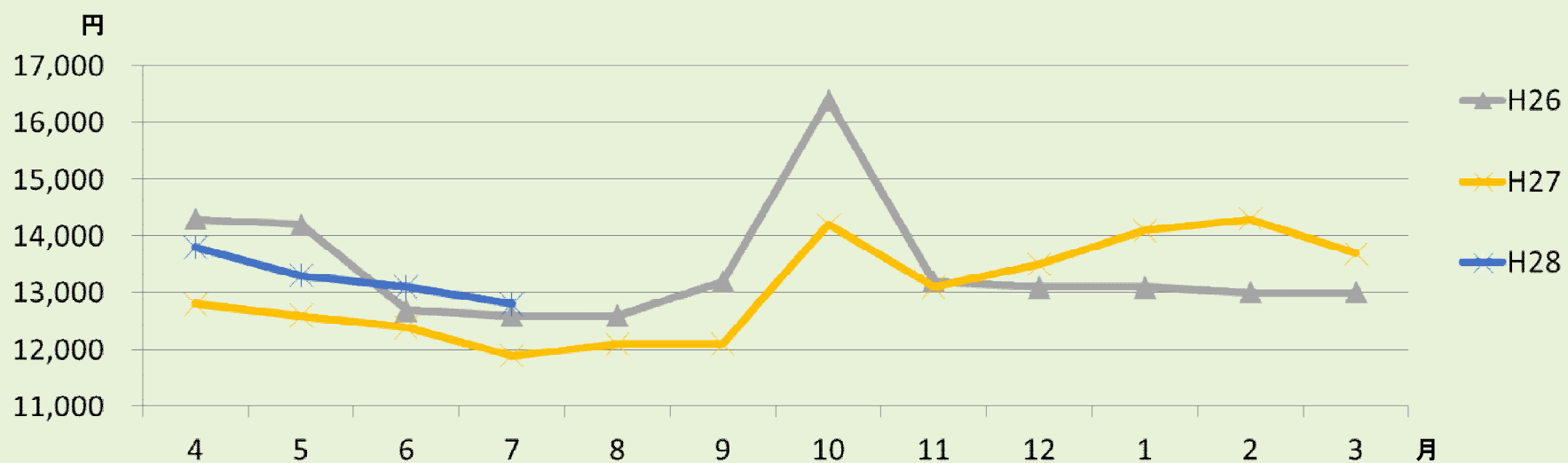
平成27年度は取扱量減少により協定販売量も減少した

価格動向(スギ)



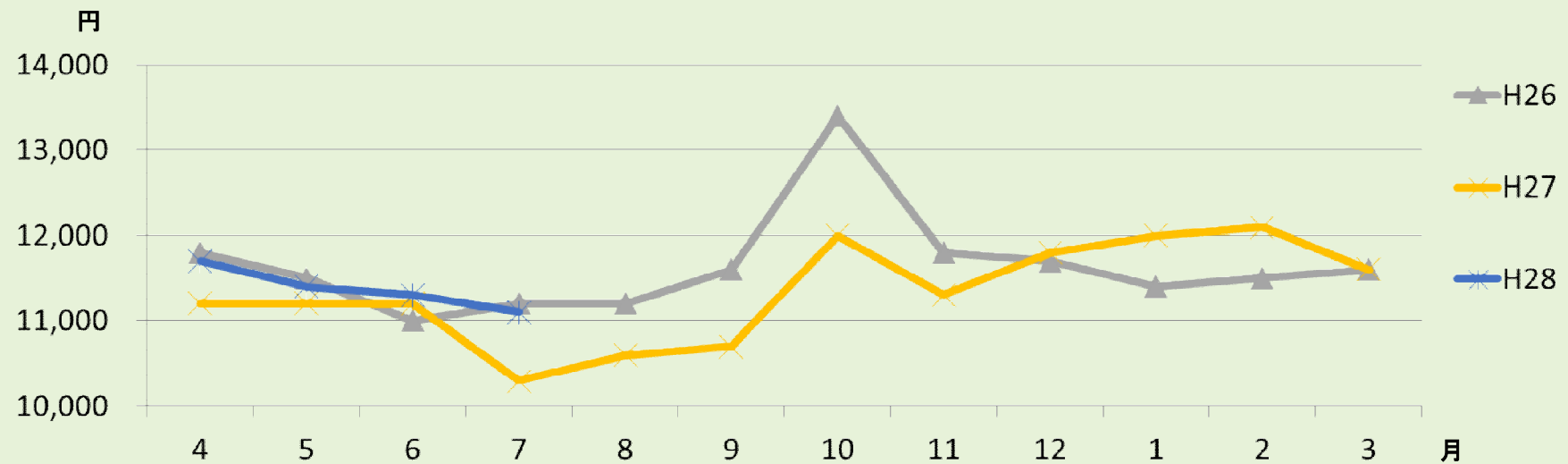
大きな価格変動はなく平均単価は、**10,000円~11,000円**で推移

価格動向(ヒノキ)



消費税率8%引上げによる駆込み需要後は、平均単価**13,000円**前後で推移

価格動向(全体)



住宅着工戸数が大幅に増加することではなく、今後の原木価格が大きく上昇することは考え難い

木質バイオマスについて

平成27年度の原木取扱量は約27,500t、チップ納入量は26,000t

平成31年4月、防府市でエア・ウォーター&エネルギー・パワー山口(株)による出力112万kwと国内最大級の木質バイオマス・石炭混焼発電所本格稼働



60,000t強の原木需要が見込まれる

県北部域の集荷強化の為、県森連は新たな木材流通拠点(素材・バイオマス材を含む)を整備

これからの木材生産

大型製材工場(地元)、合板工場(隣県)及び木質バイオマスと需要は限りない

供給能力 < 需要

素材生産力強化こそが山口県林業の喫緊課題